

平成29年10月18日
第2回高知市高齢者保健福祉
計画推進協議会
健康福祉部：介護保険課

第7期介護保険事業計画策定に係る 在宅介護実態調査の結果について

1 調査概要

- ・ 目的 : 第7期介護保険事業計画等の策定にあたり、「高齢者等の適切な在宅生活の継続」と「家族等介護者の就労継続」の実現に向けた介護サービスの在り方を検討する
- ・ 対象者 : 高知市在住で、**在宅で要介護認定（要支援含む）**の更新時期である方
- ・ 方法 : 認定調査員による聞き取り調査
- ・ 期間 : 平成29年4月4日（火）～平成29年6月30日（金）... 3か月間
- ・ 回答者数 : 346人

※人口10万人以上の自治体における必要サンプル数 : 600人（厚労省より提示）

必要サンプル数との乖離に関する詳細は「5 調査の課題」にて後述

在宅介護実態調査の結果について

2 回答者属性

女性が約6割，後期高齢者が約8割を占める。要介護度では要介護1が最も多い。約3割が単身世帯である。

図1 性別

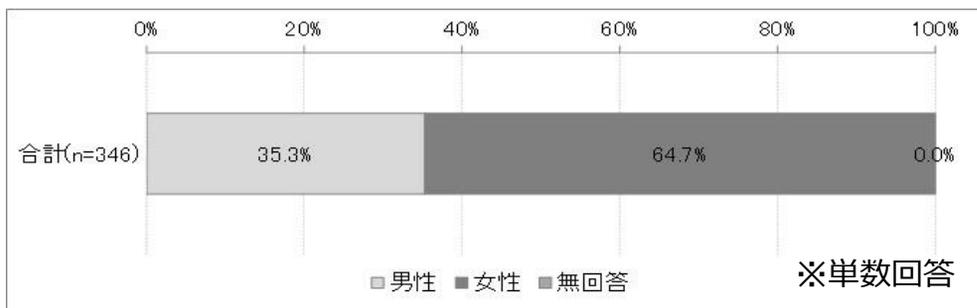


図2 年齢

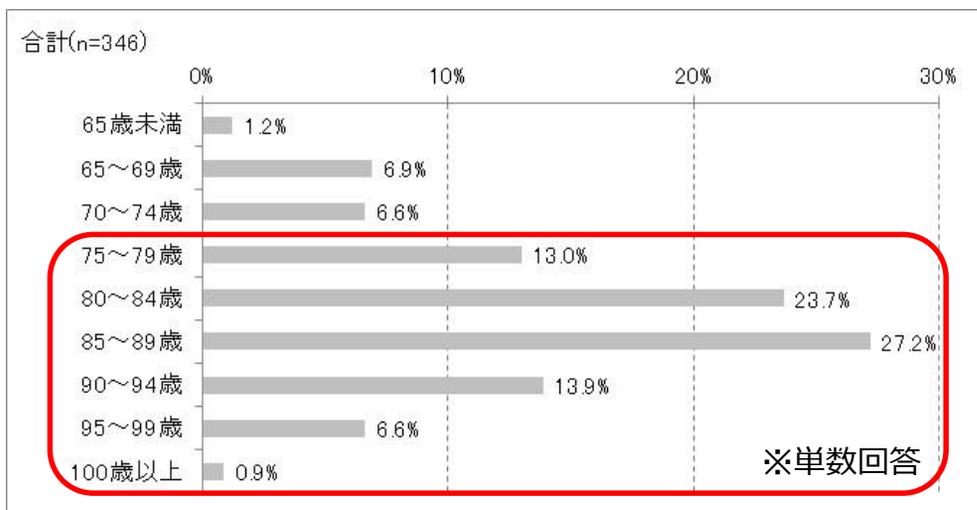


図3 要介護度

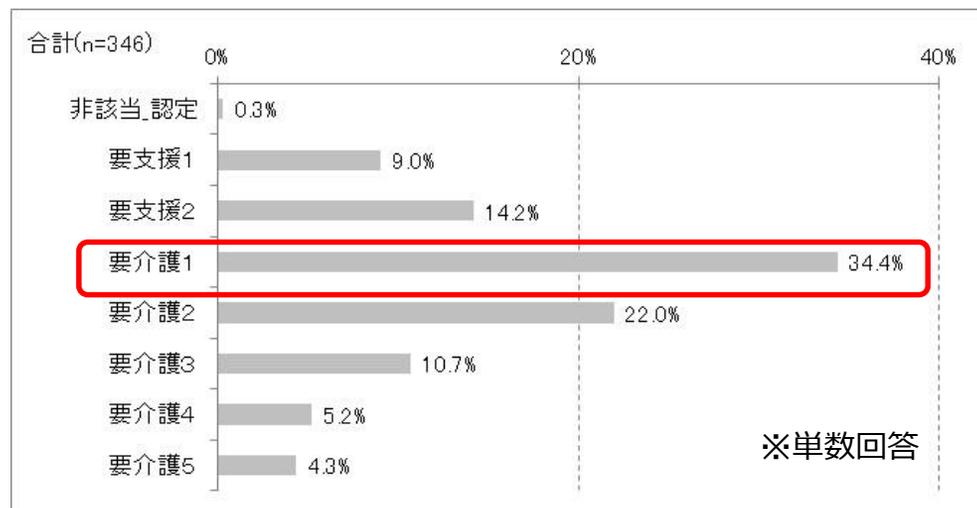
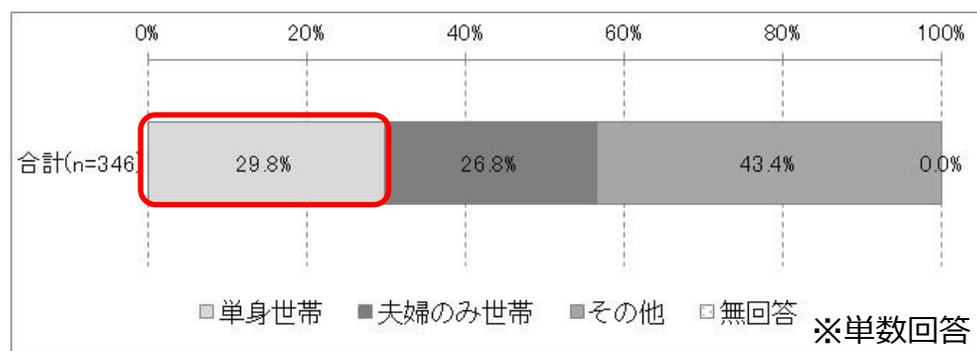


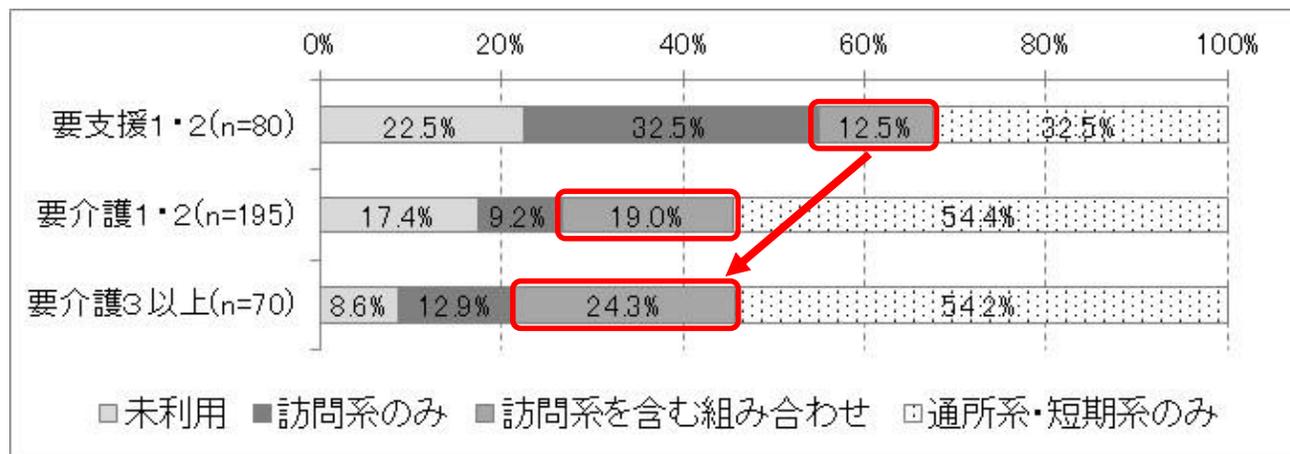
図4 世帯類型



3 調査結果から読み取れる特徴的な傾向...介護保険サービス利用状況

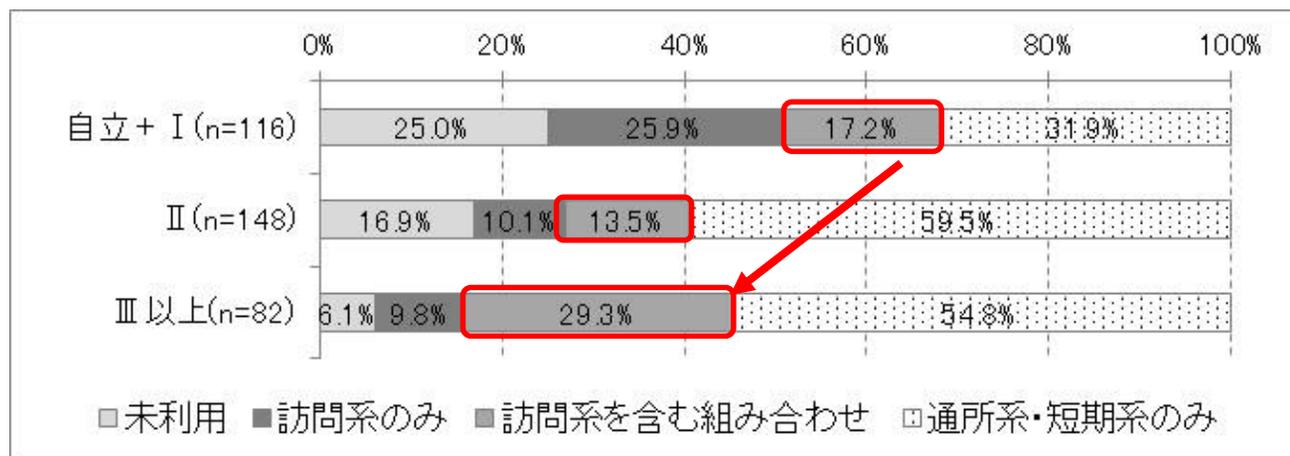
要介護度や認知症自立度の重度化により、訪問系を軸としたサービス（複合サービス）の利用割合が高まっている。

図8 要介護度別・サービス利用の組み合わせ



※単数回答

図9 認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ



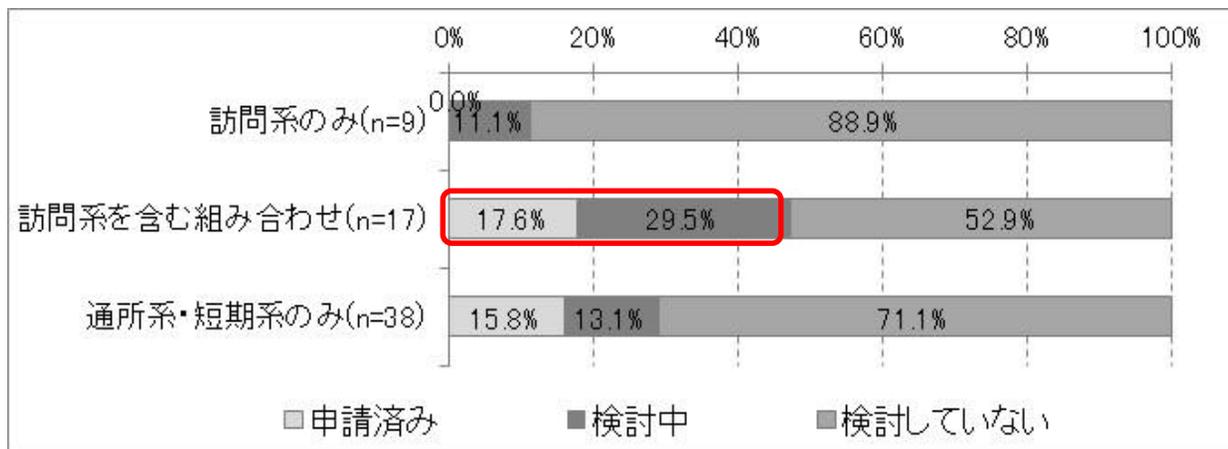
※単数回答

※「訪問系を含む組み合わせ」=「訪問系」に「通所系」および「短期系」を組み合わせ利用

3 調査結果から読み取れる特徴的な傾向...施設入所意向

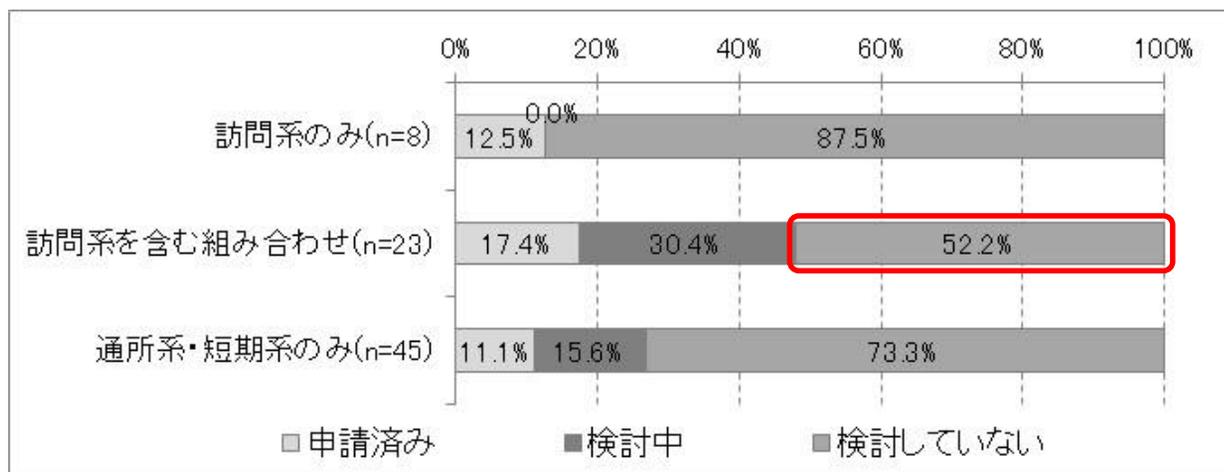
複合サービスの利用者は、施設入所意向が強い。

図10 サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（要介護3以上）



※単数回答

図11 サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（認知症Ⅲ以上）



※ 単数回答

※「訪問系を含む組み合わせ」 = 「訪問系」に「通所系」および「短期系」を組み合わせで利用

在宅介護実態調査の結果について

3 調査結果から読み取れる特徴的な傾向...介護者の不安

要介護者の重度化に伴って、介護者がより不安を感じる介護は、「認知症状への対応」と「日中・夜間の排泄」「外出の付き添い、送迎等」「食事の介助（食べる時）」である。

図12 要介護度別・介護者が不安を感じる介護

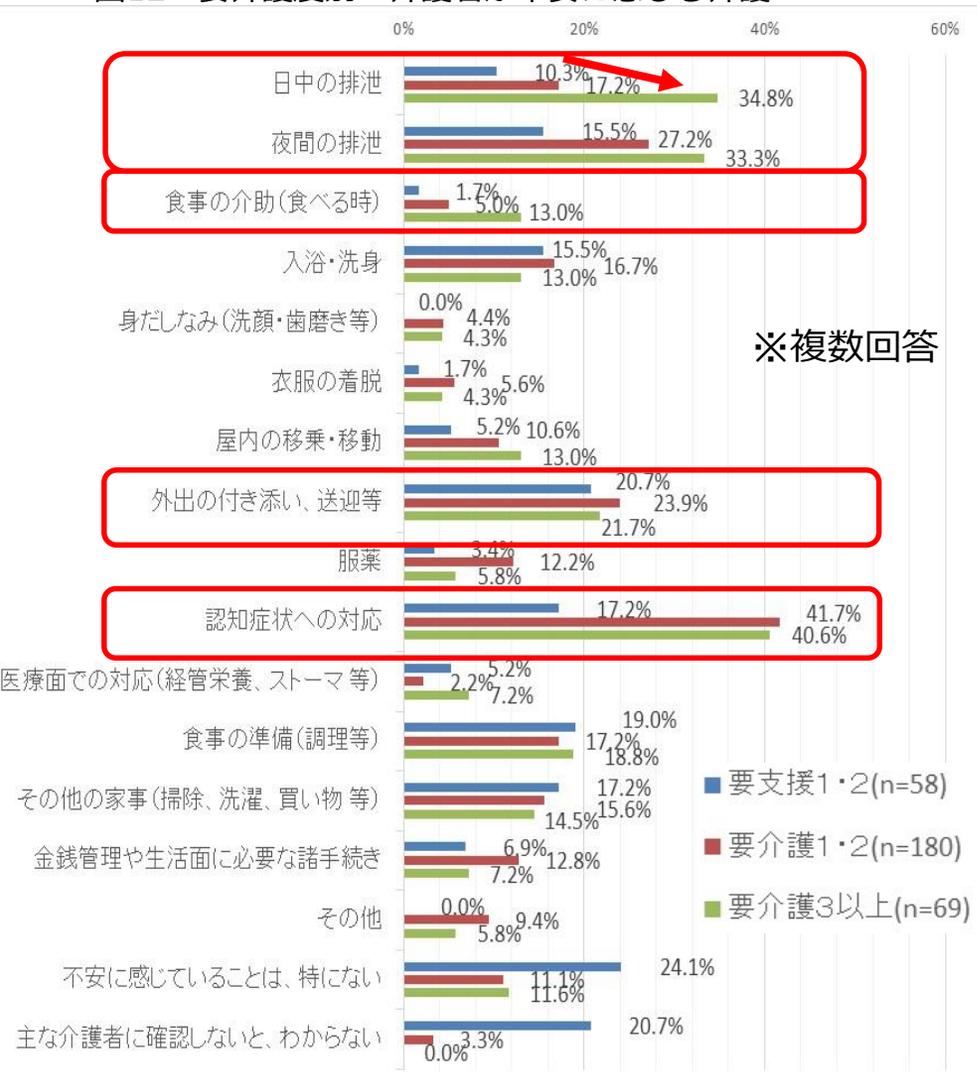
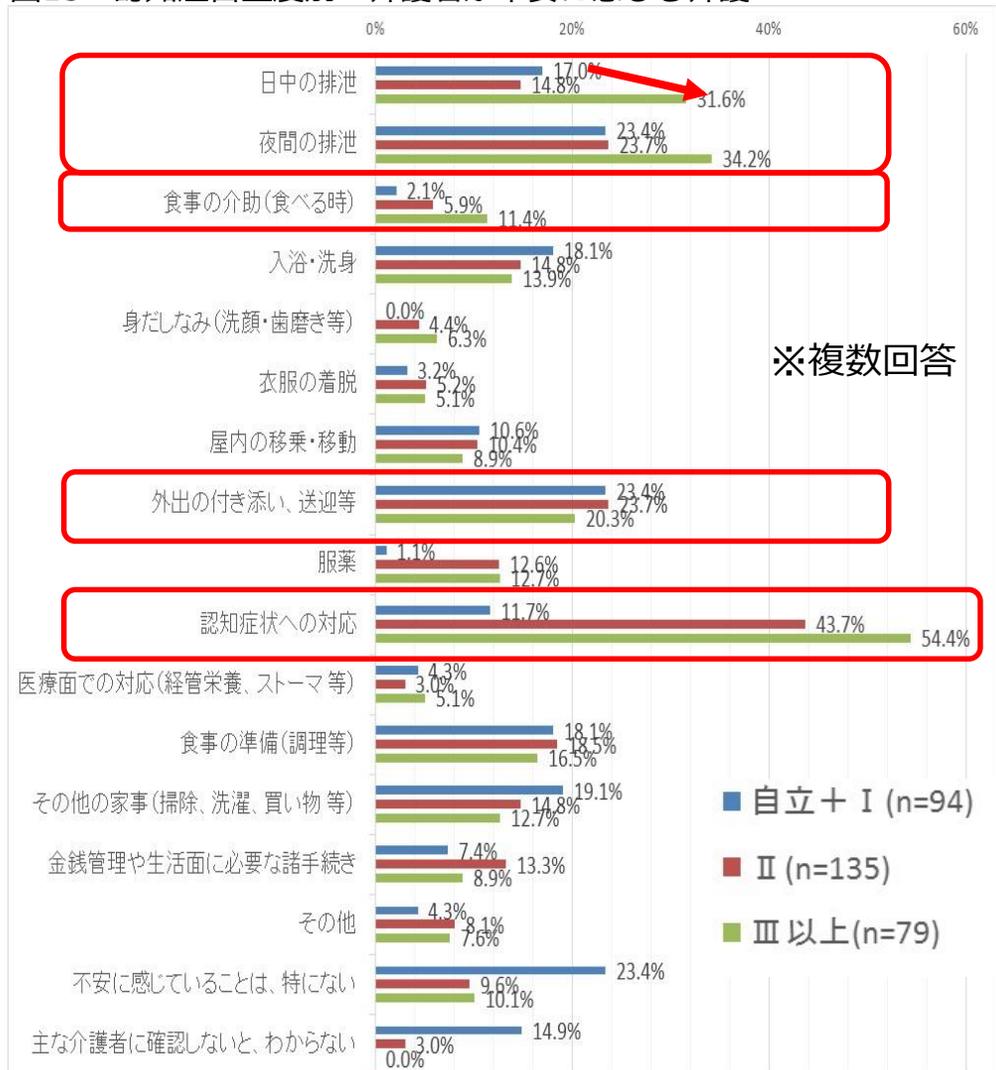


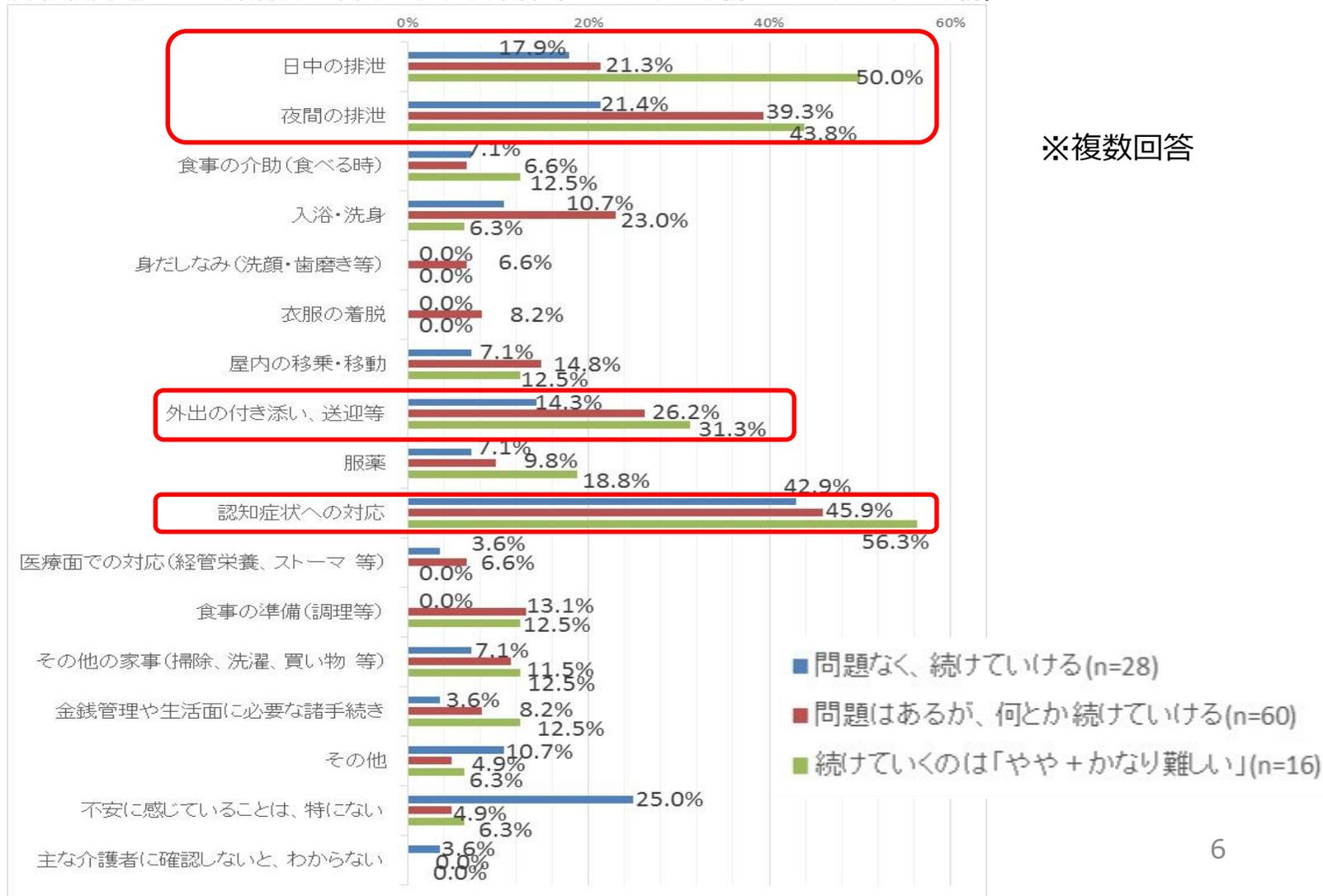
図13 認知症自立度別・介護者が不安を感じる介護



3 調査結果から読み取れる特徴的な傾向...介護者の不安

就労継続が困難な（続けていくのは「やや+かなり難しい」）介護者が不安に感じる介護は、「認知症状への対応」と「日中・夜間の排泄」および「外出の付き添い、送迎等」である。

図14 就労継続見込み別・介護者が不安に感じる介護（フルタイム勤務+パートタイム勤務）



3 調査結果から読み取れる特徴的な傾向...介護**保険外**サービス利用状況

介護者がフルタイム勤務の場合、介護**保険外**では「配食」サービスの利用が最も多い。
在宅生活の継続には「配食」「外出同行」「掃除・洗濯」等、生活援助サービス全般が必要とされている。

図15 利用している**保険外**の支援・サービス（フルタイム勤務）

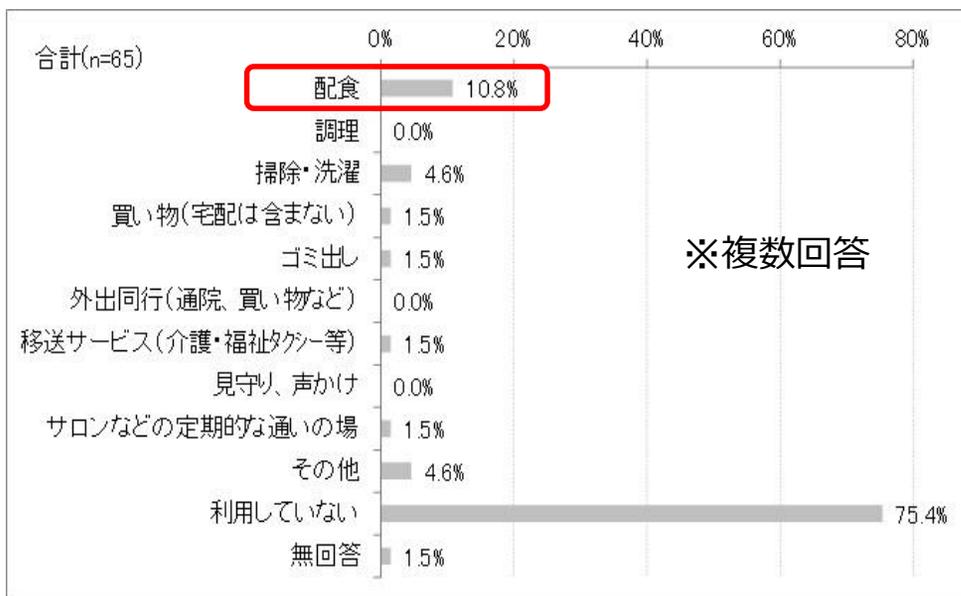
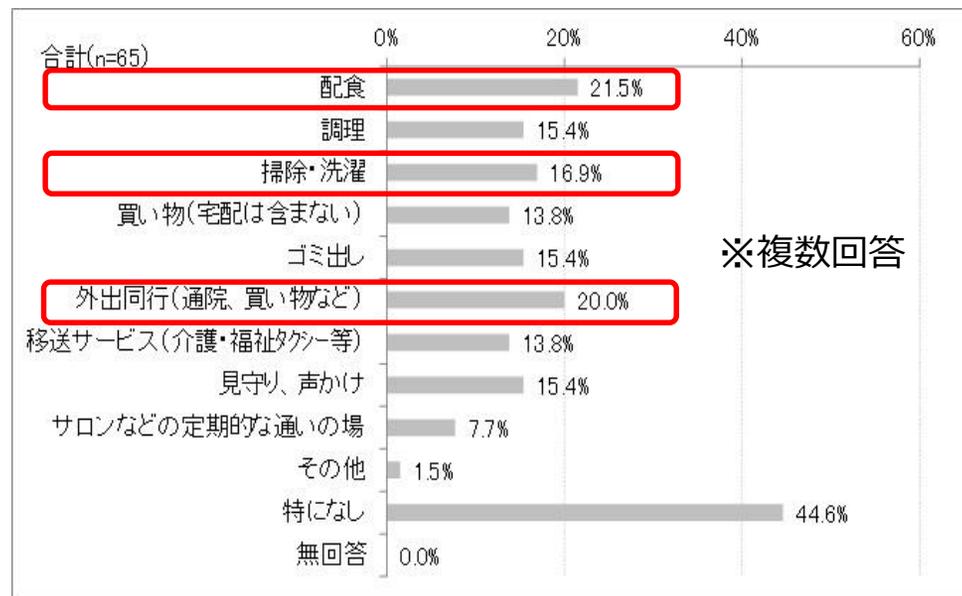


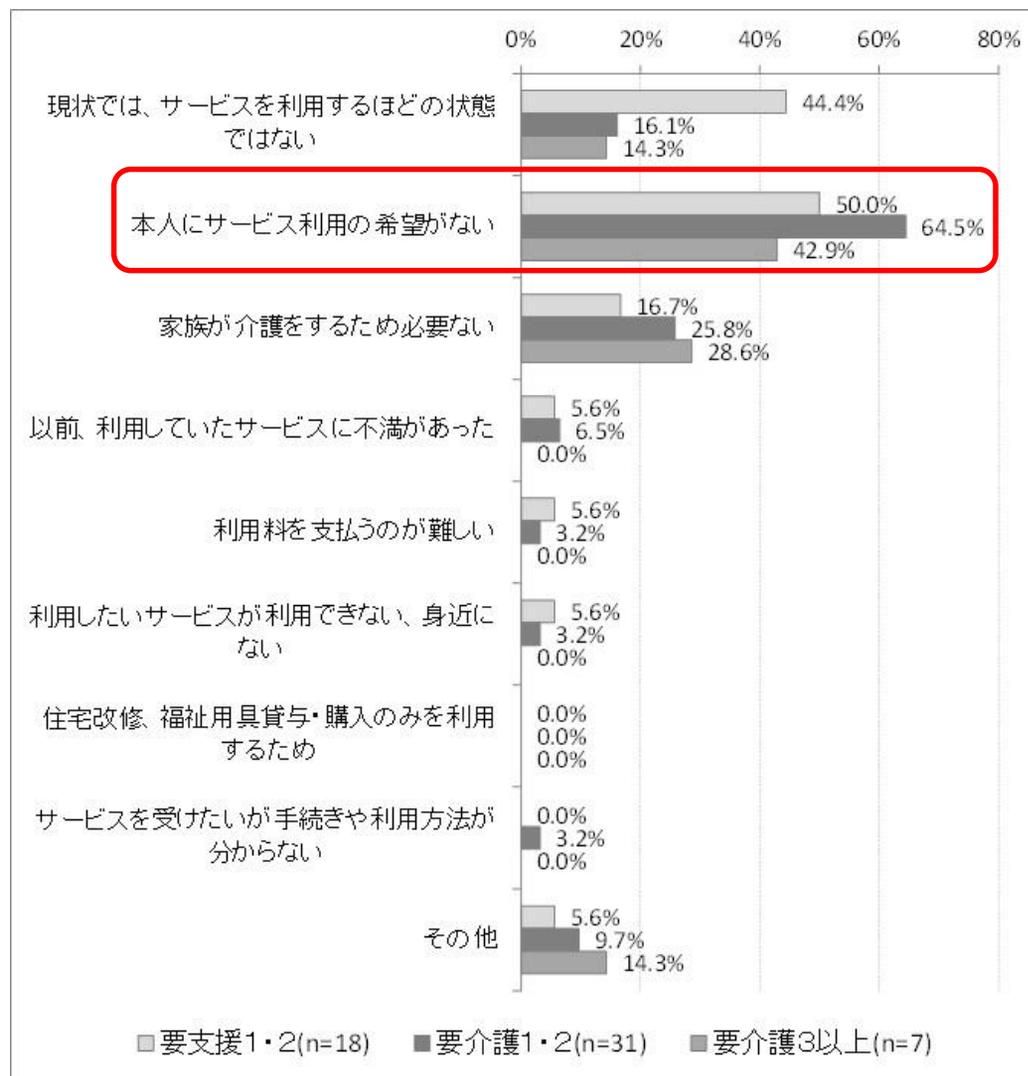
図16 在宅生活の継続に必要と感じる**保険外**の支援・サービス（フルタイム勤務）



3 調査結果から読み取れる特徴的な傾向...介護保険サービス未利用理由

介護保険サービスを利用していない理由は、「本人にサービス利用の希望がない」がすべての要介護度で最も多い。

図17 要介護度別のサービス未利用の理由



※複数回答

4 考察

- 要介護者は、重度化するほど、訪問系サービスを軸とした複数のサービスを組み合わせて利用しながら、在宅生活を継続している状況が把握できた。
今後、中重度の要介護者の増加に伴い、複合サービスのニーズがさらに高まることが予想される。
- 一方で、複合サービスの利用者は介護重度者が多いため、施設入所意向が強く、在宅生活の継続に限界を感じている可能性もある。
今後、複合サービスのニーズとともに、施設入所へのニーズもさらに高まることが予想される。
- 介護者の就労継続見込みや要介護度および認知症自立度に関わらず、介護者の不安は、高い順から「認知症状への対応」「日中・夜間の排泄」「外出の付き添い、送迎等」であった。
また要介護度および認知症自立度の重度化に伴い、「食事の介助」への不安も高まっていた。
この4点に、より着目した取り組みが必要である。
- 介護者がフルタイムで勤務しながら在宅での介護を継続させるためには、「配食」「外出同行」「掃除・洗濯」等を中心とした生活援助サービスが必要と感じている。
介護者・要介護者が安心して日常生活を送れる様、幅広い視点から生活支援の取り組みを検討することが必要である。

5 調査の課題

- ・ 回答サンプルを予定数集めることが困難であった。

聞き取りが困難な事例を想定する必要があった。

実際に次の認定調査開始時間への影響が出たケースがあった。

認定調査員の多くは非常勤であり、所得の事情等により対応件数に制限がかかる場合があった。



- ・ 分析手法の変更や、調査期間を長期確保するために早めの情報提供等を、国や県に提言していく。
- ・ 郵送による調査の実施も検討する必要がある。

※参考：他市の回収状況

<認定調査員による聞き取り調査>

高知県南国市 186人 (目標 300人)

東京都武蔵野市 488人 (目標 600人)

<郵送調査>

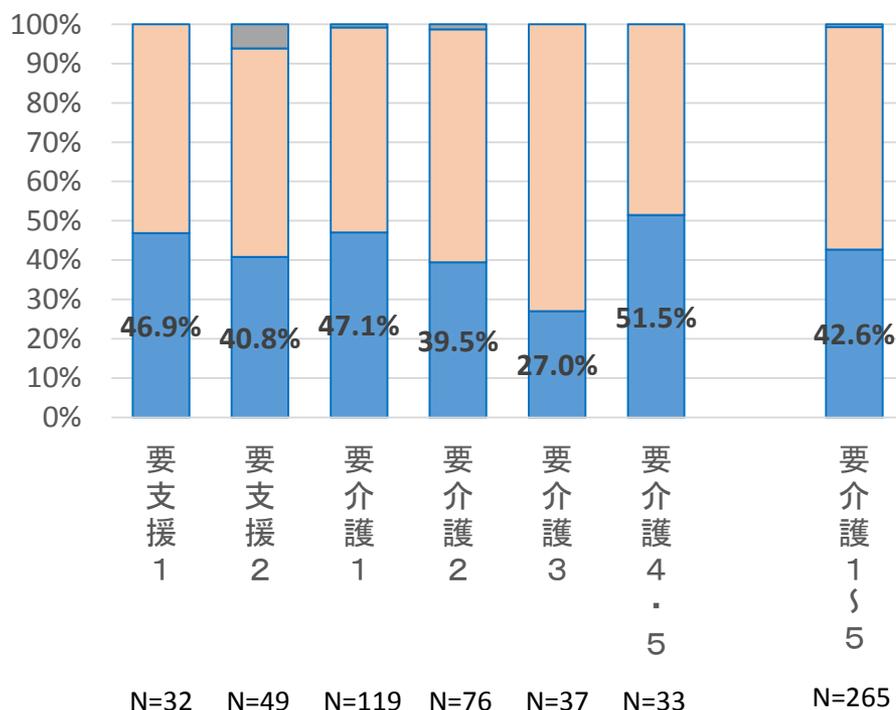
神奈川県横浜市 1,934人 (調査対象 4,000人, 回収率 48.8%)

【在宅介護実態調査：高知市独自調査項目結果】

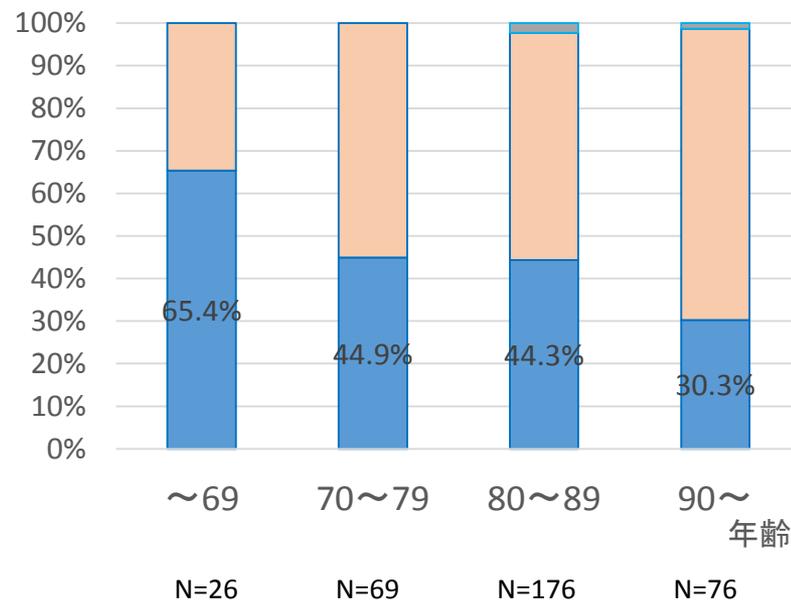
問15 過去1年の歯科受診（訪問歯科診療を含む）の状況

要介護認定者で1年以内に歯科受診した人は42.6%であった。
 介護度別では介護度3が受診割合が低く、介護度があがるほど受診していない状況ではなく、
 年代が高くなるほど受診していない現状であった。

歯科受診の状況（介護度別）



歯科受診の状況（年代別）



■ 歯科受診あり ■ 歯科受診なし ■ 無回答

